ダニエル・オッテンザマー （クラリネット）

Daniel Ottensamer, clarinet

　2009年からウィーン国立歌劇場管弦楽団、2012年からウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者。

　デンマークのカール・ニールセン国際コンクールのほか、多くの権威あるコンクールでの受賞経験を誇る。

　ソリストとして、ロリン・マゼール、グスターボ・ドゥダメル、アンドリス・ネルソンス、ファビオ・ルイージ、ケント・ナガノらの指揮のもと、ウィーン・フィル、ザルツブルク・モーツァルテウム管、N響などと共演を重ねている。また、2021年にはザルツブルク音楽祭にソリストとしてデビューを飾り、マンフレート・ホーネック指揮／カメラータ・ザルツブルクとモーツァルトのクラリネット協奏曲を演奏した。

　ウィーン・フィルとベルリン・フィルのメンバーで構成され、クラシック、ジャズ、スウィング、フォークミュージックに取り組むアンサンブル“フィルハーモニクス”の創設メンバー。同アンサンプルとは2018年にオーパス・クラシック賞を受賞した。

　室内楽ではダニエル・バレンボイム、ルノー・カプソン、ミッシャ・マイスキー、ハーゲン・クァルテット、歌手のバーバラ・ボニー、トーマス・ハンプソン、ほかにもボビー・マクファーリンらと共演している。

　録音も多く、ソロ演奏ではモーツァルトとジャン・フランセのクラリネット協奏曲をソニー・クラシカルからリリース。“フィルハーモニクス”では、ドイツ・グラモフォンと専属契約を結んでいる。

　2022年に幼なじみのシュテファン・コンツ（チェロ）、クリストフ・トラクスラー（ピアノ）と組み、あらゆる時代に書かれたクラリネット三重奏曲を取り上げた７枚組のディスク「The Clarinet Trio Anthology」をデッカから発売し、新譜を引っ提げた全12公演のアジア・ツアーを成功させた。2023年には、アダム・フィッシャー指揮／ウィーン・フィルとの共演で、ニールセンのクラリネット協奏曲をソニー・クラシックからリリースした。

　2024/25年シーズンから、大阪フィルハーモニー交響楽団のアーティスト・イン・レジデンスを務めている。